図書便り　3年生図書委員　特集

兵庫県立小野高等学校　SSH 探究推進　図書　　令和７年度　３号(2025 年７月夏特別号)

（3 年生図書委員による）

本の紹介

～タイトルセレクト～

- 「私はこの本に一番心を揺さぶられました」
- 「高校生活で後輩の皆さんにお薦めする本はこれです！」

3－1　北脇　瑚夏さん

「暗号クラブ」　ペニーワーナー

訳　藩　由美子

私がこの本に一番心を揺さぶられたと思う理由は、私が小説を好きになったきっかけの本だからです。

この本と出会ったのは、小学校 4 年生のときでした。その頃までの私は小説が苦手で、朝読の時間もとても退屈に思っていました。ある時母に「この本読んでみたら？」と薦められ読み始めたのがこの本でした。

アメリカの小学校が舞台で、暗号好きな4人の小学生が「暗号クラブ」を結成し、自分たちの身の回りにある暗号を解くというのが基本の内容です。この本は全 20 巻あり、それぞれの巻で様々な事件に巻き込まれていきます。

自分と同じくらいの子が難しい暗号を解いている、それが当時の自分にとってはとてもかっこよく見えました。また、最初は謎だらけだったことが、物語を追うごとに明らかになっていくという形は、当時ミステリーを知らなかった自分にとっては衝撃的で、とても惹かれました。

私はこの本を通じて読書の楽しさはもちろん、分かる、ひらめく楽しさ、そして物語の世界に没入する楽しさにも気づくことができました。そこから私は色んなミステリー小説を読んだり、ドラマや映画、漫画にも目を向けるようになりました。

この本との出会いがきっかけで、私は今書籍関係の仕事に就きたいと考えています。この本と出会っていなければ、今の私は無かったとつくづく思います。

以上が、私がこの本に一番心を揺さぶられたと思う理由です。

3－1　岡田　結さん

「青くて痛くて脆い」　住野よる

私がこの本を選んだ理由は、この物語は今の私たちの思春期ならではの痛さを感じ、とても共感したからです。この話は、「できるだけ傷つかないこと」をモットーに生きてきた主人公と、自分の理想を追い求め、少し周囲から浮いている、主人公と正反対の性格をもった秋吉寿乃が二人で秘密結社「モアイ」を結成することから始まります。そんな中、「モアイ」は当初の姿からは想像できないほど変わり果て、就活サークルとなってしまい、結成当初の理想を大切にする主人公とどんどん変化していく秋吉の考えとの間にすれ違いが起こり主人公は「モアイ」を脱退します。そのことで、主人公は恨みの感情に変わってしまい最終的に「モアイ」を潰すという考えになります。私は、このシーンが印象に残っていて、読んでいるだけで共感もしてしまうし、同時に痛いとも感じます。これはこの年頃にしか感じることのできない貴重なものだと思います。そして、この話の最後には、主人公が自分の未熟さを自覚し、「傷ついてでもいいから秋吉に謝りに行こう。」といい、かつて傷つかないための行動をしてきた主人公の心の成長が見られます。私の中でそこが一番のポイントかなと思います。自分の非を認めて変わるというのはそう簡単にいくことではないけれど、人生においてとても大切なことなのかなと思いました。私はこの本に一番心を揺さぶられました。ぜひ皆さんにも読んでもらいたいです。

3－2　谷口　穂佳さん

『水仙』　太宰治

私が十八年間で一番影響を受けた本は、沢山あって決められなかったので最近授業で習っている太宰治の『水仙』という作品を紹介したいと思います。

この作品は、主人公の「僕」が菊池寛の『忠直卿行状記』を基に「僕」の身辺で起きた出来事を回想しながら語ります。その出来事とは「僕」の生家と関わりがある裕福な家に嫁いだ静子夫人が自身の画才の有無に振り回され破滅するというものです。周囲の称賛を真に受けていい気になっていたが、それが単なるお世辞だったと気づき絶望する静子夫人に「僕」が何を思い、どんな行動をとるかに注目して読み進めてみてください。 太宰治といえば何かと騒動を起こし、最後は入水自殺によって亡くなった破天荒な印象をもつ人が多いでしょう。私もそんな印象を抱いており、代表作の一つである『人間失格』を読んだ時は太宰の情緒不安定な性格が作品にも出ているなと思ったけれど『水仙』では苦い思い出も笑えてしまう、太宰らしからぬ明るさを感じ印象が少し変わりました。

この作品を読んでみて、人は他人の意見に流されやすいからこそ自尊心が大切だと思ったので、他人の評価を気にしてしまう人にこそぜひ読んでほしいです。短編小説なので「気になるけど長いし難しそう」と思って遠慮している人もぜひ読んでみてください。

3－2　森脇　葵さん

『世界で一番透き通った物語』杉井光

作家の父を亡くした主人公が異母兄と協力して父の遺稿を探していくうちに、知られざる父の一面や隠された過去、そして真実に迫っていくお話です。ミステリー要素もあり、物語全体を通して、登場人物たちの心の動きや繊細な感情が純粋で透き通ったガラスのように描かれており、読者もその透明な世界に引き込まれていきます。複雑な内容を扱いながらも、話の展開がわかりやすく、サクッと読めるのであまり本を読んだことがない人にもおすすめです。電子書籍化不可能と言われるくらい、紙の本ならではの仕掛けが満載で、読み終わったあとにはいい意味で裏切られ、心がほんわかと温かい気持ちになりました。登場人物のキャラがが濃く、言動の一つひとつに共感できる人もいれば、できない人もいるかもしれませんが、ネタバレ無しで一度は読んでみてほしいそんな小説です。小説のカバーがおしゃれでバリエーションも豊富なので集めてみるのもいいかもしれません。

3-4　森本　蒼良さん

『中学３年生の息子に贈る、学校では教わらない「お金の真実」』　安田　修

自分史上、最も影響を受けたのは、この本に書かれていた「投資に対する考え方」でした。本書には、お金の稼ぎ方や使い方、投資や詐欺といった多角的な視点から、お金にまつわる知識が丁寧に、そしてわかりやすく紹介されています。初めて読んだのは中学 2 年生の頃でしたが、「お金」という一見難しそうなテーマにもかかわらず、専門用語を避けた表現でスッと理解することができたのを今でも覚えています。最近になって読み返す機会があり、特に投資について書かれた章をしっかりと読みました。18 歳を迎えた今、自由な選択ができるようになり、お金の管理にも関心が高まっています。そこで投資に興味を持ったのですが、「自分には難しい」と距離を置いていました。しかしこの本では投資について、「お金に働いてもらうこと」という表現を用いており、これに大きな刺激を受け、将来の資産形成に向けた重要なヒントだと感じました。お金は人生において常に必要となるものだからこそ、若いうちから正しい知識を身につけることが、豊かな人生を送るうえで欠かせないと思います。今後も知識を深め、自分なりの計画を立てていきたいと強く思いました。

3－4　藤原　春菜さん

『麦本三歩の好きなもの』　住野よる

この本は、私が中学の読書感想文でも書いたことがあるくらい大好きで読むとほっこりした気持ちになれる一冊です。図書館で働く食べること・寝ることが好きな麦本三歩が、なにげない日常や、その日常で感じる好きなものについて描かれています。

この本はいくつかの章に分かれているのですが、その中で私が特に印象に残っているのが「麦本三歩は君が好き」というお話です。三歩は抜けているところがたくさんあって、仕事でもよく怒られてしまうけれど、日常にある小さな幸せを大切にする真っ直ぐな心を持っています。そんな三歩が大学時代の友人と水族館に行ったときに、その友人へかける三歩なりの正直な言葉に心を打たれました。もし私が三歩の立場だったらどんな言葉をかけられるだろうか、と読む度に考えます。また、この章の最後には「次は、二割を私にちょうだい。」という文があります。この二割が何なのか、ぜひ読んで考えてみてほしいです。

これから受験勉強で行き詰まったり疲れてしまって時にこの本を読んで、三歩の考え方や生き方から元気をもらいたいと思います。

3－6　末廣　航大さん

『ROLAND』　ローランド

俺か、俺以外か。ローランドという生き方

皆さんは、自分の心の支えになるような言葉に出会ったことはありますか？ 僕にとっては、ローランドの言葉がまさにそれでした。

「たくさん嘘をついてきたけど、自分に嘘をついたことはないね。一度も。」

この言葉に、僕は強く感銘を受けました。実際、僕自身もこれまで他人の意見に流され、自分の本心を押し殺して選択してしまったことが何度かあります。そして、そのたびに後悔が残りました。「あのとき、自分の気持ちをもっと大事にしていれば」と思うことも少なくありません。だからこそ、ローランドの「自分に嘘をつかない」という姿勢は本当にカッコよく映りました。自分をごまかさず、誠実に選択を重ねていくことが、たとえ遠回りに見えても、自分らしい人生を築く一番の近道なのだと感じさせてくれました。久しぶりにこの本を読み返してみると、やっぱり面白く、以前には気づけなかった新たな発見もありました。本全体が、自己責任と強い信念に裏打ちされたローランドの言葉集のようで、読み終えたときには自然と「自分に恥じない人生を選ぼう」と思えます。自分の生き方を見つめ直すきっかけをくれた、大切な一冊です。

3－6藤田　佑璃さん

『時給三〇〇円の死神』　藤まる

私が影響を受けた本は、藤まるさんの「時給三〇〇円の死神」です。数多くの小説を読んできましたが、影響を受けたと聞き、思い当たる本がこの小説でした。こう言っていますが、私がこの本を読んだのはつい最近のことです。この小説は、高校生の佐倉真司が死神のアルバイトを通じて考え方が成長していく話です。

話を読み進めていくと語られる死神というアルバイトはどんなものなのか。私はこの小説を読んで、なんとなく社会の闇を見たような気持ちになりました。だけど、もし仮に今私たちが生きているこの世界は、ひょっとしたらこの小説と同じような世界なのかもしれない。そう考えたら、今というこの瞬間を後悔しないように過ごしてみようと思いました。冒頭に「このアルバイトは最悪と言っていい。残業代は出ない。交通費も出ない。早朝でも平気で呼び出される。そのくせ、業務内容は幽霊のような《死者》をあの世に送るという常識外れのもの。何より時給が 300 円。300 円である。」「それでもこの仕事をキミに勧めたい。」とあります。正直こんなアルバイトはブラック過ぎて、やってみたいだなんて思いません。しかし、主人公は勧めたいと言う。その理由が知りたい方はぜひ読んでみてください。分かるかもしれませんよ。

3－7　長田　周さん

『余命 3000 文字』　村崎　羯諦

『大変申し上げにくいのですが、あなたの余命はあと3000文字きっかりです』ある日、男は医者から余命を宣告された。文字数で…。男は文字数を消費しないよう、無駄なことを考えず、当たり障りのない人生を生きる。そんな男が迎える結末とは？　この本はタイトル見た瞬間絶対おもろいやんって確信して読んだのですが、この本なんとショートショート集となっており、「余命3000文字」含め26編も収録されています。「彼氏が鯖缶になった」「骸骨倶楽部」「精神年齢10歳児」「出産拒否」タイトルだけでもうワクワクしちゃいませんか？どれもこれも不思議な世界観で、突拍子もなくて、面白いです。心が苦しくさせられるようなものもあれば、ゾッと不気味なものもあるし、笑えるものもあれば、切なくなるものもあります。いろんなジャンルの短編がたくさんあるので、あなたのお気に入りも見つかるはず。短い時間にパッと読めるので、ぜひ読んでみてください！

3－5　山本　龍之助さん

『学問のすすめ』　福沢　諭吉

僕が皆さんにおすすめする本は福沢諭吉の名作『学問のすすめ』です。『学問のすすめ』と聞くと、少し堅苦しいイメージを持つ人もいるかもしれません。しかし、この本に込められたメッセージは、時代を超えて高校生の僕達に響くものがあります。高校生の皆さんは一度は「なぜ学ぶのか？」と疑問に思ったことがあるのではないでしょうか。『学問のすすめ』にはその問いの答えがあります。何気なく受けている授業や取り組んでいる勉強が、『学問のすすめ』を読めば将来どのように役立つのか、その意味を深く理解し学ぶことへのモチベーションを高めることができるはずです。『学問のすすめ』は、皆さんの高校生活をより豊かにし、将来の選択肢を広げるための一冊になるはずです。『学問のすすめ』は青空文庫に公開されていたり現代語訳で出版されているものもあるので勉強の合間に気軽に読んでみてください。この本から得た学びを、皆さんの未来に活かしてくれることを願っています。

3－7　近藤　陽登さん

『4』（歌集）　青松　輝

青松輝の「4」という歌集を紹介したいと思います。私はついこの間、人生で初めて歌集というものを買いました。とりわけ短歌などに興味があったわけではないのですが、好きな youtuber に歌人という一面があることを知り、それに興味を持ったからです。中でもお気に入りの一首を紹介します。

「さよなら三角またきて四角
　ほんとうはそのままここにいてほしい　星」

ダークな印象の強い 394 首の中、ほんの少し明るく目に留まった破調の一首です。聞き馴染みのあるようで無機質な言葉遊びの上の句に対し、思わず本心が溢れる下の句に人間味を感じ、庇護欲をくすぐるような愛おしさを感じませんか？上の句の三角、四角と対になる図形に、星をあてている点にも内に宿した光と無邪気さが垣間見えます。

この一首を独立させても様々な見方がありますが、歌集の中ではもっと多くの歌が連なり、相乗効果を産んでいるのです。

私の今後の文学に対する姿勢を変えた一冊だと感じます。私は受験に向けたスマホ離れの第一歩として、勉強の合間はこの歌集で過ごしています。皆さんも好きな歌人や一首を見つけ、スマホ代わりにお気に入りのマイ歌集でスキマ時間を過ごしてみるのはどうでしょうか。ぜひ一冊、手にとって見てください。

＊３年生委員の皆さんが紹介してくれた書籍はできるだけ集めるようにしています！